



FDとは『ファカルティ・ディベロップメント (Faculty Development)』の略で、大学の授業改革のための組織的な取り組みのことをいいます。本学では、教員がおこなう授業について、学生のニーズに応えていくためにどう工夫ができるか、などを検討する『FD推進部会』を設置しています。



## 2010年度「教員と学生による授業に関する座談会」

学生から具体的な意見や生の声を聞くために、6月23日(水)に、各学科の学生と本学の教員による座談会を実施しました。今回その一部について紹介いたします。(発言内容について、一部抜粋しています。全文は学内PCからホームページで閲覧できます。)

### 【概要】

実施日：2010年6月23日(水) 13:00~

参加者：学生9名、FD委員〔御輿教授(部会長)、宮本教授、小島教授、田村准教授、中田准教授、吉川准教授〕

### 1. (全体) 授業に対する意見

**教員**：本日はみなさんお忙しいところ、本学のFD推進部会が実施する座談会に参加していただきありがとうございます。各学科から1、2名参加いただいておりますが、まず外大の授業で受けて良かった授業、またはこういう授業を受けてみたいというのがあれば言っていただけますでしょうか。おひとりずつご意見を願います。

**学生**：英米学科の法経商コースに所属していますが、専門の語学は読む・書く・話すそれぞれ授業がある上に、商業系、法律系など外国語学部っぽくない授業があり、先生の専門性もきちっとしている。

**学生**：語学系であれば双方向の授業が一番いい。少人数で学生同士、先生とも議論を深められる。経営学や政治学(大教室講義)は一方通行でも面白い授業だった。視聴覚教材をうまく使い、ポイントを絞って、先生の独自の視点が良く分かる授業だった。

**学生**：みんながやりたいのは実践的な話す能力を鍛える授業なのではないかと思う。授業の中で、もっと外国語で話す機会を増やしたりする必要がある。

**学生**：中国語で中国文学の解釈をして、それについてその先生の思想や考え方、観念などを示してくれるような授業がもっとあってほしいと思う。

**学生**：専攻語学のある先生の授業は進むペースは遅いけれど、その分学生に対してきちんとした精訳を求めてきて、1文1文を大切にしてくれる。半期で2作品くらいしか読めなかったけれど、

中身が濃くて楽しかった。それから、スペインに関する授業が多く、中南米に関する授業が少ないと思う。

**学生**：必修の授業でもテーマを決めて欲しい。前期終了時にこのレベルまで行く、とか。講読はもっと見せ方を工夫して面白くするべきだと思う。プロジェクターを使って学生が作った文章をサンプルに解説をするなど、視覚を使うと面白くなると思う。

**教員**：英米の場合、3・4年生は専攻語学が選択制になっているけれど、その制度はうまくいっていると思う？

**学生**：選択制度はいいと思うが、1・2年生で教えてもらった先生、自分が受けて良かった先生の授業を取りたいと思うし、内容よりも先生で選んでいる。評判や自分の感触で選ぶから、希望者数に偏りが出る。

**学生**：この大学に編入してきて、前の大学と違って、外国語でしゃべる機会が少なくなったと感じている。一番好きな授業は講読で、スクリーンを使って、本も読んで来る範囲がきちんと指定されていて、わかりやすい言葉で説明してくれる。先生の問いかけに対して学生も活発に意見を出している。

**学生**：実際入ってみたら、国際関係なのに戦争や外交のことばかりで、もう少し理系の、環境問題とかを充実させてほしい。外大だから仕方ないかもしれないが、文系に偏っている。もっと幅広く勉強できる環境を整えてほしい。英語は会話の授業をもっと充実させてほしい。会話や通訳の授業を入れるとか、留学生を授業に参加させるとか、実践的な英語の授業がほしい。英語の授業自体が週4で少ないので、せめて週5にしてほしい。

**学生**：単位互換の規模をもっと大きくしてほしい。それから、クラス内での個々の英語のレベル差が大きい。だから、入学して最初にテストがあって、その成績順でクラスをわけて、クラスごとに授業を変えるというようにするのも一つの手じゃないかな、と思う。あとは、企業など現場で仕事をしている人の話を聞く機会

をもっと設けてほしい。大学の先生よりもっとゆさぶりをかけてくれるし、話しぶりからして違う。だからそういう、実際に働いている一般の方を呼んでほしい。最近腹が立つのが、学生についてなんですが、授業に平気で20～30分遅れて、ドアを音を立てて開けて堂々と入ってきて、悪びれた様子もなくどかっと一番前の席に座って、肘をついて、下から見上げるような感じている。あれはどうにかならないのかと思う。

教員：それではここからはそれぞれが話し合いたいテーマによって、語学系と非語学系のグループに分かれて話をしてみましょうか。



## 2. 語学系の授業についてのグループ

### ①カリキュラムについて

学生：4年で作文を取っているんですが、アカデミックライティングをやっていて、それは1・2年のうちにやっておくべきだと思った。

学生：3年の時の会話なんですが、「アイデアは日本語でもいからしっかり考えてくる。出す時に英語で言うことが大事であって、中身がないと会話にならない。」ということをきちんと言う先生で、中身を要求する会話の授業だったんですけども。そういうのも1・2年のうちにやるべきだと思います。

### ②話す力、読む力について

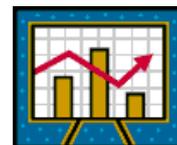
学生：スタートラインは一緒でも、話す能力に差があるように感じる。発音の授業がないので、それが欲しいなと思う。

教員：読む力はいったん身につくと中々錆びつかないと思うんですよ。会話力は使っていないとたちまち錆びつく。ある程度基礎力ができていれば、読む力、書く力ができていれば、それに支えられる形でできるようになってくると思う。条件反射的に喋れるようなレベルまで行くと喋れているような気になるけど、ちょっと突っ込んだ話や、深くものを考えようとしたり、海外で書かれた難しめの本を読もうとしたりした時に、日常会話がずらずらできる能力だけでは役に立たない。だから長い目で見ると、あまり会話力に惑わされない方がいいと思う。週1～2回ではそんなに流暢に喋れるようにはならないから、どうしてもそうなりたいなら自分で努力しないとイケない。我々も会話力をつけたいという要望に応えられるように考えようとは思いますが、会話力に目を奪われると危ないということも分かっています。

学生：私も先生方の意見に賛成です。留学に1年行って会話力は身についたけど、帰ってきて使う機会が無いのでどんどん錆びていった。帰ってきてわかったことなんですけど、しゃべるだけなら外国や語学スクールに行けばすむ話であって、大学にはスペイン語ならスペイン語を使ってどれだけ専門的な授業をできるかが問

われると思う。

教員：通訳とかになりたいと思うのなら、そういう専門学校に行けば反射的に言葉が出てくるような訓練を徹底的にやると思う。ものすごく厳しい環境で。大学はそういうことをやるような環境じゃないから、外国のどんなところに興味があるのかというのは人それぞれで、そういういろんな興味を持った人から色々学べるというのはいいことだと思っている。だから会話をレベル別にとってもあまり賛成ではない。会話をやりながら同時に、レベル別でそろえた時には学べないものを色々学ぶことができると思う。大学は一見無駄なようなことが大事だと思っていて、はっきりした目的意識であまりにも整然とシステムティックに授業が行われるというのは窮屈で居心地が悪い。一見無駄に見えることの意味を知ることは大事だと思う。



## 3. 非語学系の授業についてのグループ

### ①出席について

学生：出席について、出席を取ったからもう終わりとか、出席を取らないからあの授業は出なくていいとか、そういう話を聞くのがすごく気になる。

学生：最初に出席を取る授業と最後に出席を取る授業があるじゃないですか。最後に取るのは意味がないと思う。遅刻してきても出席になるし、あの時間に出席を取るからそれまでに行けばいいというようになる。

学生：今日の授業についての感想やビデオを見ての感想を書くというのであれば、意味のある出席だと思う。

教員：出席のためだけに来るのでは、モチベーションが下がらないのかなと思うけれど。

学生：出席を取らなかつたら重みが無いという気もする。出席を取らなくても聞きたい授業なら行くけど。出席を取らないことでだらけてしまって、単位を取ったものの全く内容が身についていないというのも怖いので。

学生：私は出席を取ってがちょっと固めるというのは好きじゃない。学びたければ学生は行くと思う。

### ②授業の進め方について

学生：非言語系の大講義室の授業で、先生がプリントだけ配付して、そのプリントそのものを指さして授業をしていた。マイクも使ってくれないし、映像を見せる時だけはプロジェクターを使うけど、それ以外はどこのことを話しているのかわからない。

学生：せっかくだから授業の後に先生とゆっくり話したいと思う時もあるんですが、なかなか10分の休み時間じゃ物足りなくて。

教員：時間の許す限りはウェルカムだと思いますよ。ダメな時は次の授業があるからとか言うけど。

学生：どうしても許し難いのが、ある先生がシラバスは教員と学生との契約書だと書いていたんですが、その契約書を先生が守らないことがある。進度が遅かったり、全然違うことをやったり。こっちはやる気が失せてしまう。守ってほしい。

教員：計画通り進めてほしいということですね。

学生：はい。

教員：私は授業内容は進度によって変更がありますとか、ちょっと書いているんだけど。

学生：変更があるならあるで伝えてほしい。

### ③授業の内容について

教員：授業の内容に対してはどうですか？こういう授業は良かったとか、こうしてほしいとか。

学生：授業のレベルをシラバスに書いてほしい。シラバスには先生の専門的なところにまで触れるというように書いてあったんですが、実際始まってみたら高校時代の倫理・政経と全く同じようなことを淡々と話すだけっていう授業があって、それはちょっと勘弁してほしい。こちら単位がかかっているのに。前期はそうでも後期は・・・と思って待っているけど全然内容が深まらなくて。

教員：難しすぎてわからないと言うのかと思ったら逆なんですね。

学生：知識の詰め込みはもういい。考え方や視点を教えてほしい。

学生：この大学は外国語大学だけど、他の外国語大学ではできないような科目も持っていて、先生方も充実しているのでそれを維持してほしい。

学生：自分が入ったときに、外国語大学で唯一国際関係の学科を持っているということで来たんですが、イギリス文学の先生ならイギリス文学で専攻語学をされるので、文学だけじゃなくて経済とかそういったものを、3つある専攻語学の講読の中に取り入れるといいと思う。

教員：やっぱり大学の授業というのは、自分の専門をしゃべるからこそ深みがある。

学生：その専門を教えてほしいんです。

教員：単位に関係ない授業はどのくらい取った？

学生：3～4年では関係ない授業ばかり取っていました。

教員：そういう授業って面白くない？

学生：面白いです。シラバスを見てタイトルだけで選ぶこともあります。そして行ってみて面白かったら受ける。

教員：だから、面白いな、興味があるなということがあったらぜひ他のコースの授業も受けてみて、視野を広げてほしい。

### ④意見・提案の仕組みについて

教員：座談会は普段先生には言いにくいことを他の先生に言える、という機会になる。他にどういう仕組みがあったらみんなの意見を出してもらいやすいだろうか。

学生：授業評価アンケートのようなものを増やす。授業について思うことがあったら無記名で意見を書いてもらうとか。

学生：でもその授業評価を先生が気にしすぎるというのがあって、宿題が多いとか書く人もいるので、あまりアンケートは効果的でないと思う。

教員：やっぱり双方向的なものがいいよね。アンケートだと不満ばかりじゃあどうしようというのが無いものが多いから。

学生：ある授業では4～5回の授業の後に分からないことがあれば書いてほしいということをやっていました。

学生：授業ごとに先生と意見を交換する場があればいいよね。

教員：ベースは授業後に先生と学生が話せる環境を作るとというのがベストだけど、なかなかそれができない。みんな色々な工夫はしていると思うけど、もっとやらなければ。単にアンケートをしているからいい、というのではなくて。

## <FD 委員 田村准教授より>

FD 推進のための座談会は、今回で3回目になります。今回のテーマは、『これまでに受けて良かった授業』や『受けてみたい授業』について語り合うというものでした。座談会では、いつも、学生の皆さんの意見が出やすいように心がけていますが、今回の座談会では、新たな試みとして、座談会後半に、ラウンドテーブル形式でのディスカッション・タイムを設けました。これは、文字通り、机を円卓のように配置することで、学生と教員との「垣根」を出来る限り低くし、率直な意見交換を推し進めるための工夫です。

当日は、語学系授業に関するラウンドテーブルと非語学系授業に関するラウンドテーブルに分かれ、(教員も含め)7～8人の少人数で意見交換をしました。座談会に出席していただいた学生

の皆さんには、予め、「友人同士での参加」を推奨していたこともあってか、これまでにない盛り上がりだったように思います。そのことは、今回のFD通信に、(教員ではなく)学生の皆さんの意見の抜粋が数多く記載されていることから分かります。また、ラウンドテーブル形式で、お互いの距離感が近くなったこともあり、意見のくい違いが率直に表明されることも少なくありませんでした。例えば、「会話の授業はどうあるべきか」や「非語学系授業で出席を取るべきか」などについては、学生同士の間でも対立するような意見が活発に交わされ、興味深かったです。今後とも、このような機会を生かしながら、FDをよりよい方向に進めていければと思います。



## 2010年度 教育環境改善に関する教員アンケートについて

このアンケートは、教育環境の改善をめざし、先生方の声を聞くことを目的に行われています。寄せられた声は、より充実した教育環境の実現、さらには神戸大の魅力を一層向上させるための貴重な資料となります。あらためて、ご協力いただいた教員の皆様にお礼を申し上げます。

### 《アンケート概要》

実施期間：2010年6月16日～30日（15日間）

回答数：74件

#### 【質問項目】

#### 1. 本学の授業に関するシステムについて

時間割やシラバス、成績評価など、授業に関わるシステムについての問題点や改善策

#### 2. 本学の授業サポート体制について

教員や事務職員などによる授業のサポートについての問題点や改善策

#### 3. 本学の施設・設備等について

教室や講師控室などの施設、および印刷やITなどの機器についての問題点や改善策

#### 4. その他授業に関して、お気づきの点や困っていることなど （自由にお書き下さい）

### ○寄せられたご意見

- AV教室を拡充・整備してほしい
- コピー機や教室の備品などの機器の拡充・整備をしてほしい（カラーコピー機の導入等）
- TA（Teaching Assistant）を増員してほしい
- 教員控室に常駐の職員を配置してほしい
- 欠席に関するルールを明確化してほしい
- 4年生の就職活動を理由とした欠席が多すぎる
- 紙の履修者リストが欲しい
- 授業時間中に、中庭で大声で遊ぶのは止めてほしい 等

教員の皆様からは、実に様々な意見が寄せられました。ご協力頂き、ありがとうございました。

すぐに対応が可能な要望については対応し、それ以外の意見についても順次検討してまいります。

### ＜御輿部会長より＞

「中庸」ということばについて、ふと考えこむことがあります。「片寄りも過不足もなく調和がとれていること」といったあたりが辞書の意味ですが、「中立公正なメディア」なるものがフィクションでしかないように、儒教的背景を考慮に入れてもなお、その意味するところは必ずしも判然としません。

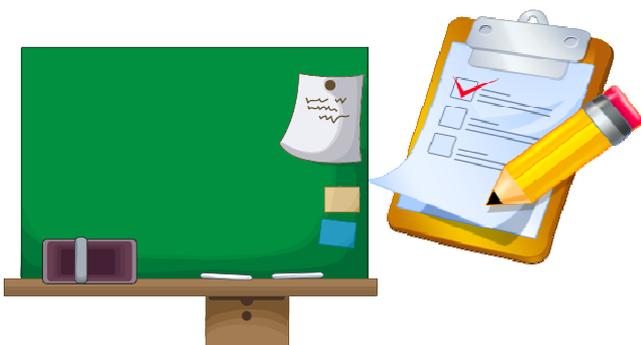
たとえば一方的で強引な方法がしばらく力を持ったとしても、やがて多くの人の支持を失うに至るのは見やすい道理です。だからこそ「ほどほど」が大事なのでしょうが、同時にそれが、しばしばぬるま湯的な中途半端さをカムフラージュするものに墮しかねないのも事実です。実質的効果をもった「ほどほど」を実践するのは、意外にむずかしいことなのかもしれません。

さて今回の教員アンケートですが、AV機器の不備や教員控室の設備について、さらには学生の欠席や成績評価をめぐる問題に至るまで、いくつも有益な指摘をいただき、どうもありがとう

ございました。予算上の限界などもあって抜本的な改革は困難なものもありますが、単に「ほどほど」の体裁を整えるのではない、具体的な改善に向けた努力を心がけたいと思います。

ただ当然のことながら、互いに全く正反対の意見をいただいたケースも稀ではなく、早い話がこのアンケート自体についても「有意義で重要だ」と評価する方もあれば、「単なる時間の無駄」と斬り捨てる方もあって、こうなると両者の「中間の道」だの「折衷案」だのは、ただの机上の空論になってしまいそうです。

結局は、話し合いや意見交換の場を増やしなが、地道に粘り強く解決法をさがっていくしかないのですが、それにつけても「中庸」の姿ははまだ定かには見えず、もとより儒教的倫理などは縁遠い凡愚の部会長にとって、「日暮れて道遠し」というのが正直な実感です。



発行：公立大学法人神戸市外国語大学  
 学生支援・教育グループ カリキュラム班  
 〒651-2187  
 神戸市西区学園東町9丁目1  
 TEL (078) 794-8133  
 HP <http://www.kobe-cufs.ac.jp/>